

【発行元】全国大学生協連関西西北陸ブロック

## 開催概要

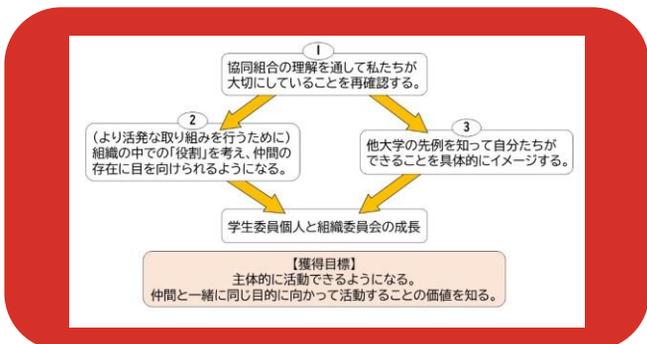
日程：2019年10月6日(日)

場所：コープイン京都201.202会議室

## 参加者（カッコ内は人数）

京都大(1)、同志社今出川(3)・京田辺(6)、  
立命館衣笠(19)・BKC(4)・OIC(6)、京府大(5)、  
龍谷大深草(15)・瀬田(9)、京教大(3)、京工繊(5)、  
京都橘(1)、滋賀大彦根(3)、滋県大(2)、奈良女(16)、  
奈良教(6)、奈良大(5)、BK事務局(16)

計13会員109名



## XX 秋セミへのこだわり

これからのGI活動を盛り上げていくために

“主体的に活動できるようになる”、“仲間と一緒に同じ目的に向かって活動することの価値を知る”という二つの獲得目標を掲げて開催しました。秋セミを経て一回生が主体的に活動に参加参画してほしい。さらには共に活動する仲間を大切にしてほしいと願いを込めて、そこにこだわって、開催することになりました。そのために裏テーマとして「対話と実践」というやり方でたくさんコミュニケーションや議論ができる形を目指しました。

## 01 協同組合・大学生協のフィールドを再確認！

レベルの高い話だったかもしれませんが。

冬のセミナーで学んだ先輩たちを見て、入部した新入学生委員に向けて開催した春のセミナーで学んだ大学生協・協同組合。秋のセミナーでは自分たちが活動をしていく大学生協というフィールドを再認識することを目標として、『大学生協ハンドブック』をかみ砕いて学習しました。



「組合員に向けて活動していただく、自分も組合員だということを「自分たちのコミュニティを自分たちで良くしていく」という言葉で気づきました。」(深草)

## 02 粘土を使って！？ 仲間に目を向けていますか？

Castle of Masakiと題して

秋のセミナーは京滋・奈良エリアの新入学生委員6～8人と先輩学生委員2人で班を構成しました。コミュニケーションをとること、他者を認めることを考えてもらうため、初対面の立場の異なる者が「企画者のお気に召すお城」という共通の目標に向けて協力できるようにワークを行いました。いろんなタイプの人で構成される組織で活発な活動を行うために、大切なことが見つかったならいいなあ。



「部会に来ていない人もGIの仲間だから放っているのは良くない。やりたい人がやりたいことをするのはダメだと思った。」(奈教)

## 03 沢山の事例を聞いて、 実現可能なラインまで持ち帰る

### 分科会 聞いても活かせにゃ 意味がない

様々な連帯の学びの場で他大学の事例を分科会式で知る機会があります。事例を聞いて参加者が持ち帰る。この学びにおいて、「大学の組合員の実態が異なるから真似できない」という穴があると思ひ、大学ごとで班を作り、自分たちならどんなところが応用できそうかをその場で話し合える形を取りました。



「現状と目的を  
しっかり立てる  
ことが大事。  
『やりたい企画＝  
現状を捉えた企画』  
でないことを  
意識したい」  
(奈教)

## 04 当日の事例を紹介① 京教：受験宿泊サポート

### 勉強以外の不安を取り除く企画！

京都教育大学は京都出身者以外にも全国各地から受験する人がいます。受験のために前日から宿泊をする受験生にとって、勉強以外に不安はたくさんあります。その不安を解消し試験を万全の状態を迎えられるように、座談会を行ったり、弁当を販売したり、当日会場までの案内をしたりの企画です。「数年前に同じ立場だった先輩だから」という点はどんな新学期活動でも活かそう！！



「自大学にはな  
かった取り組み  
で、新入生向け  
の企画でぜひ  
『受験生』とい  
う視点を取り入  
れられたらな  
あ」(衣笠)

## 05 当日の事例を紹介② 京田辺：夏バテ対策商品人気大会

### 夏という時期に注目した食の提案企画！

春から夏にかけて気温が急激に上昇します。環境が変化したのに、食堂で小鉢を取らない学生も多いことわかりました。そこで夏バテ対策になる食品（小鉢）の人気大会を開きました。組合員が小鉢の栄養価を知り、自らが投票することで店舗の運営にもかかわれるような仕組みを企画にしました。



「レシートという  
必ずもらうもの  
を使うことが、企画  
に参加しやすい工  
夫だから良いと  
思った。」  
(奈良女)

## +A 企画長の総評 と感想

### 参加者とGLのみんなへ。

秋セミの企画長を務めました、本溜です。この場を借りて、僕の思い出話を書いています。僕は2年生のとき17年度秋セミに実行委員として参加しました。その時に会って、同じ班でGLをした吉村君とは、その後も交流が途切れることなく続き、今では一緒に京滋・奈良エリアで学生事務局をしています。参加者やGLを引き受けてくれた2回生にとっても、数年後の強い関係を作る場であってくれたらと思っています。

今回の秋のセミナーはGLの2回生に頼ることばかりでした。特に分科会で話をしている姿はカッコよかったです。この間まで1回生だった彼らが、自分のやってきた企画を自信をもって話していたんです。まさに親のような気持ちです。

これから活躍を期待しています。

文責：ブロック学生事務局[本溜]



「これまでのように活動していこうか、具体的なビジョンが見なかったが、課題やチャレンジしたいことが見つかった。」  
(奈教)

